

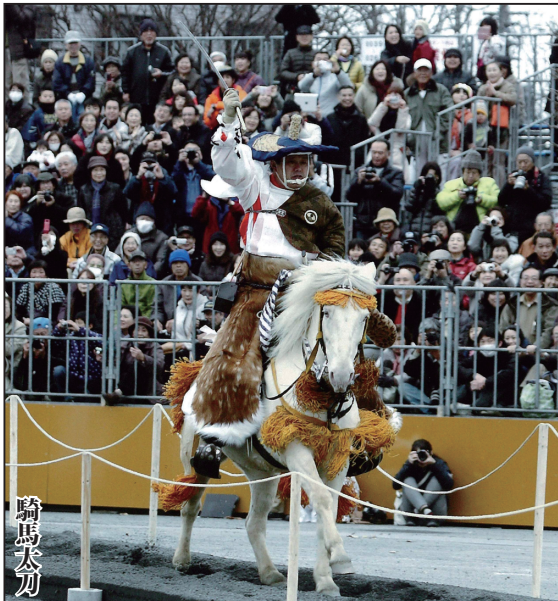
付録XI 馬上武芸は当会で騎馬術と呼び「会の原点」である。日本の武心が千年前に培った「武道の理合」と「日本之馬の習性」を融合した騎馬術は日本之武の文化遺産。国家、故郷を守るため、武人は弓矢、太刀、槍、薙刀、長巻、熊手等の武具を馬上で自由に操り活躍した。武士の最も大切な戦友は和駒であった。中世武術では馬上から弓矢を放ち、矢が尽きたら徒武者から長物を手渡され、敵を馬上から叩き落とす。槍、薙刀が折れると、最後に天下の宝刀、太刀を抜く**馬上での「武術ノ理合」が流鏑馬の原点**。武の「術」に氣の流れと武心を添えて「道」に進化させたい。



長刀



長巻



騎馬太刀



馬上長槍



短槍



弓馬術



薙刀